

< 議論の経過 >

開催日	会議名	主な議題	ページ
R7 3月28日	第6回浅草地区まちづくり ビジョン 策定委員会	(1) 前回委員会以降の各部会等での議論の状況について (2) ビジョン策定のスケジュールについて (3) ビジョン素案作成に向けて (4) ビジョン策定後の検討体制（案）について	2
6月10日	第8回浅草地区まちづくり ビジョン 基盤整備部会	(1) ビジョン素案に向けて ・Ⅲ章：基盤整備関係の主要プロジェクト ・Ⅳ章：将来イメージパースの作成方針	8
6月17日	第8回浅草地区まちづくり ビジョン まちづくり部会	(1) ビジョン素案について ・Ⅱ章：地区内の回遊・地区外への広がりイメージ ・Ⅲ章：ソフト施策に関するプロジェクトやアイデア	13

第6回策定委員会での議論・ご意見

■第6回 策定委員会

■開催日時

- ・令和7年3月28日（金） 16：30～

■実施内容

- ・下記について、意見交換を実施。
 - ⇒ビジョン素案たたきの内容（主に紙面構成）について

第6回策定委員会での議論・ご意見

(1) ビジョンの構成検討について

項目	いただいた御意見	対応状況
2章 世界の浅草	■「回遊性」の概念について 大きなテーマとして「回遊性」がある。(…)イメージとしては円が良いのかもしれないが、実態としては、その回遊性を実現する方法として単に円運動で動いてもらうわけではなく、例えば浅草の中でも、六区ブロードウェイ通りとその周辺をどう結びつけるか、あるいは南北の軸に対して東西の二天門通りや伝法院通りをどう結ぶか。東西の動きも当然大事になってくるので、解像度を上げて、空間のしつらえや、人の動きをきちんと見ていかなければいけない。先ほどのストーリーをしっかりと作って行って、どうやったら観光行動が大きくなるのか、社会をどのように動かしていくのかを考えていかないと本当の回遊性は実現しない。	⇒ ビジョン素案：p12で対応しました。 「回遊」の概念は、「<u>人が多く集まる場所では空間を広く確保し、人通りが疎らな場所では魅力を増やし、これらの取り組みを紡いでいくこと</u>」として、その説明を加えました。

第6回策定委員会での議論・ご意見

(1) ビジョンの構成検討について

項目	いただいた御意見	対応状況
2章 世界の浅草	■ 「浅草地区2047年頃の姿」について 「歴史と●●」という場合に、「歴史」と「●●」は対極的な言葉というか、対義語であった方が「溶け合う」という言葉に繋がってくると思う。もし「●●と▲▲がどうする」と言う場合に、その言葉どうしの関係性を考えた方が良い。 - 浅草は、1400年前から歴史があるまちなので、浅草の全部を未来的なまちにするのではなくて、古い歴史を残しつつ、近未来的なものも取り入れたような形で整理されるのが良いと思う。 「変化」というのは、ここに若い方のいろんな考え方が入ってくるのは良いけれど、この人たちがこのムードの中で付き合ってくれるような変化であったら良いと思う。「古い歴史を壊さないといけない、我々が浮かび上がらないといけない」という形になってきてしまうと、対立性が出てきてしまう。(…)歴史がありつつ、若々しい浅草のまちを目指すとなると、やはりこの歴史をつないで育んでいって、それで新しいまちを作ってくれる人は、やはり若い思想な人たちだなと思うので、別案3は、別案1・2と比べたときには、そういった闘争性は控えめであるし、文化性の方が強いのかなという感じがするので、これが良いという印象がある。	⇒ ビジョン素案：p11で対応しました。 「2047年頃の姿」を「未来のまちの姿」と修正し、それを表す言葉を「歴史がある、新しいまち浅草」としました。

第6回策定委員会での議論・ご意見

(1) ビジョンの構成検討について

項目	いただいた御意見	対応状況
4章 ビジョンの 実現に向けて	■ 主要プロジェクトの表現方法について （主要プロジェクトで）中身をどうするかについては、まだこれから詰めなければならないところが残っていて、この詳細はまた部会で、その頃までにちゃんとできるものが何で、価値があるものとは何か、という精査が必要である。 （各プロジェクトの「やりたい姿」とは）2030年頃の姿もあるかもしれないし、ここで言っている2047年頃の最終形の姿というものを、段階を追っていくような描き方という形があるかもしれない。整備メニューも、すぐできるものと、合意形成が必要ですごく時間がかかるものも混在しているかもしれないので、25ページ以降の内容は、時間軸に合わせてすぐやるべきものからそうでないものまで、整理をする必要がある。 メニューがハード系に寄りすぎている印象があるため、例えば整備メニューだけではなく、ここに対してどういうソフトのアプローチが想定できるかについても、この整備メニューときちんと関係づけをしていくところが必要。（…）この整理ができると、ビジョン策定後、こういうプロジェクトに関する協議会みたいなチームを具体的に作っていくときに、スタートから何をすべきか、どういう関係者を入れておくべきかということも、ちゃんとイメージができていく。	⇒ ビジョン素案：p24-34で対応しました。 p26で、<u>「まちづくりプログラム」の抽出意図をまとめ、p27-34で各プログラムの展開によるありたい姿・実施する取り組み・進行イメージを整理</u>しました。 ⇒ （同上） ⇒ ビジョン素案：p27-34で対応しました。 各プログラムに対し、<u>ハード整備の観点だけでなく、ソフト施策の取り組みは何が該当するかも併せて整理</u>しました。

第6回策定委員会での議論・ご意見

(1) ビジョンの構成検討について

項目	いただいた御意見	対応状況
4章 ビジョンの 実現に向けて	■ 主要プロジェクトの表現方法について このまちづくりビジョンの検討とは別に、浅草十二階凌雲閣の復元に向け検討している。(…) p28の内容が、まさにこのプロジェクトが該当するところだと思うが、この検討内容を、まだビジョンにうまく入れ込めていないので、今後、こういった具体的に進んでいるプロジェクトをどのように入れていくかということは検討しなければいけない。地権者や事業者との調整の話もあるので難しいところではあるが、ぜひとも検討している内容に関してはビジョンに入れ込んでいきたい。	⇒ ビジョン素案：p33で対応しました。 凌雲閣の復元に関し、具体的な検討が進行しているプロジェクトについては、<u>ビジョンに反映が可能な範囲で記載</u>しています。

第6回策定委員会での議論・ご意見

(2) 議論の進め方について

項目	いただいた御意見	対応状況
その他	■ 今後の議論の進め方について - 具体的に各地域でどのように作り上げていくか、という全体のイメージがあって、それをうまく機能させるために公共空間や街路、滞留スペース、それから駅や舟運との接続など、20年後位にどういう機能が入っていてどういう人が来るか、というところを全部結びつけていくということを、残り時間が短い中で、イメージしたうえでもう1回このビジョンのワンフレーズを考えていくと、良いものができそうな気がする。 「具体的に何をやるのか」という話を基盤整備部会や準備会でともに詰めていただいて、そのイメージを持ちながら、全体像をもう一度確認し合う、ということが重要だと思う。	⇒ ビジョン素案：p11で対応しました。 「2047年頃の姿」を「未来のまちの姿」と修正し、それを表す言葉を「歴史がある、新しいまち浅草」としました。 ⇒今年度のまちづくり部会や策定委員会では、<u>基盤整備部会での検討結果も共有しながら議論</u>します。

第8回基盤整備部会での議論・ご意見

■第8回 基盤整備部会

■開催日時

- ・令和7年6月10日（火） 10：00～

■実施内容

- ・ビジョン素案作成に向け、意見交換を実施。
（特に、Ⅲ章：基盤整備関係の主要プロジェクト、
Ⅳ章：将来イメージパースの作成方針）

第8回基盤整備部会での議論・ご意見

ビジョンの素案について

項目	いただいた御意見	対応状況
2章 浅草の未来	■浅草の未来を体現する言葉について 「歴史がある、新しいまち浅草」の考え方も、この紙面で説明しておいた方がよい。具体的にどのような考え方・アプローチが良いのかについてはアイデアを整理しているので、別途、共有する。	⇒ ビジョン素案：p11で対応します。 なお、「歴史がある、新しいまち浅草」の考え方については、プロローグに記載していますが、全体の構成を再検討し、考え方が伝わるよう工夫します。
	■浅草の未来を体現するイメージ図について - 地区の中心的部分がどうなるか、という表現に絞られている点で気になる。将来の姿は真ん中の部分だけではなく周りの部分にも変化が現れてくるべき（配慮が必要）だと思う。 - 本図を起点にバックキャストで捉えて、将来的には、ビジョンの7～8割ぐらいは実現していくものだと思う。起点の部分というのは、具体的なことというよりは、「こうあって欲しい」という、夢物語の理想ではないにしても、そういうところをきちんと掲げる必要があると思う。 - 結局、フォワードキャスティングになっていないか。これまでの積み重ねを踏まえて将来を描く、というように見える。バックキャスティング型としながら、うまくフォワードキャスティング的な部分と折り合いをつけることが求められていくと思った。	⇒ ビジョン素案：p11で対応しました。 「未来のまちの姿」を体現する<u>ラフパースを挿入し、Ⅲ～Ⅳ章で示す取り組みを実現することにより、各箇所でのどのような絵姿になるか、を吹き出しと共に説明</u>しています。

第8回基盤整備部会での議論・ご意見

ビジョンの素案について

項目	いただいた御意見	対応状況
2章 浅草の未来	■浅草の未来を体現するイメージ図について 上野・浅草・スカイツリーは、東京を代表する、インバウンドを含めた人たちを集められる場所だと思っており、浅草とスカイツリー、浅草と上野という繋がりを考えたときに、その繋ぎ方も、浅草通りに、具体的に記述された方が良い。まちのキャパシティを大きくしていこうと思ったときに、横の空間的な広がりを作っておくことが非常に重要だと思っており、そういう意味では地区外への広がりをもう少し具体的にイメージできるようにした方が良い。（回遊イメージ図等と合わせて検討すべき）	⇒ ビジョン素案：p11-12で対応しました。 「未来のまちの姿」を体現するラフパースを挿入するとともに、「回遊」の概念は、「<u>人が多く集まる場所では空間を広く確保し、人通りが疎らな場所では魅力を増やし、これらの取り組みを紡いでいくこと</u>」だとして、その説明を加えました。

第8回基盤整備部会での議論・ご意見

ビジョンの素案について

項目	いただいた御意見	対応状況
3章 実現に向けた 戦略	■各戦略の説明文について - アウトカムというか、将来の姿が書かれているが、戦略はあくまでも「目標に至るために何をすれば良いのか」という計画のことだと理解しているので、戦略の下に書かれるべきは、具体的な行動、つまり「将来取るべきアクション」に特化した方がしっくり来る。 - 何をするとどうなるか、KPIみたいなものを位置づけた方がよい。目標に対してどのようにアプローチしていくかを掲げるべきである。戦略に関する個別の施策を実施すると、ここに書いてあるようなことになる、という感じになっているので、具体的に何をすべきかをきちんと書いた方がよい。紙面のレイアウト等と併せて検討されると良い。	⇒ ビジョン素案：p17-22で対応しました。 <u>各説明の説明は「将来取るべきアクション」に特化する内容に校正し、その実現に向けた具体的な取り組みを、同じ紙面の中に情報として入れ込む</u>ように精査しました。 ⇒（同上）
	■プロジェクトについて プロジェクトの内容が小粒に感じる。スーパー堤防の広がりや河川の西側まで広く及ぶのか、単にスーパー堤防整備をやるだけなのか、という書き方で見せ方が変わる。ここではもっと大きな取り組みが掲げられて、その下に細かな取組が紐づく、という形にした方がよいかと思う。	⇒（同上） なお、取り組みを戦略の紙面に入れ込む調整に伴い、<u>「プロジェクトのゴールマップ」は削除</u>しました。

第8回基盤整備部会での議論・ご意見

ビジョンの素案について

項目	いただいた御意見	対応状況
4章 先導的まちづくりプログラム	■各プログラムに掲載するビジュアル情報について ・ パースだけで説明し尽くせるか、やや疑問に感じた。例えばスーパー堤防はパースだけでは伝わりづらく、何か図面とあわせて表現するなど、解説が必要だと感じる。それぞれの「先導的まちづくりプログラム」に合わせた適切なイメージを共有するための素材と解説が示されるべき。	⇒ ビジョン素案：p27, 29, 31, 33 で対応しました。 各取り組みの実施により <u>どのようなことを実現したいか、その概念図を「ありたい姿」の隣に添え、解説するものとして加える</u> ようにしました。
	■イメージパースについて ・ なぜこの場所と方向を選ぶのか、という説明が必要だと思う。各プログラムの象徴的なシーンが、そこにまつわるストーリーとセットで議論されるべきだと感じている。「場所を戦略的に選んでいく」というところが非常に重要だと思った。他にもビフォー・アフターの形で示す手もある。	⇒ ビジョン素案：p28, 30, 32, 34 で対応しました。 イメージパースの <u>各アングルをどのような意図で抽出したのか、「その場所でどのようなシーンが広がっているか」の説明を加える</u> ことで示しました。

第8回まちづくり部会での議論・ご意見

■第8回 まちづくり部会

■開催日時

・令和7年6月17日（火） 15：00～

■実施内容

- ・ビジョン素案作成に向け、意見交換を実施。
（特に、Ⅱ章：地区内の回遊・地区外への広がりイメージ、
Ⅲ章：ソフト施策に関するプロジェクトやアイデア）

第8回まちづくり部会での議論・ご意見

ビジョンの素案について

項目	いただいた御意見	対応状況
2章 浅草の未来	■地区内の回遊・地区外への広がりイメージについて - 浅草寺に向かう動きは確実に起こる。参拝後の東西南北に分散していくようなイメージがあっても良い。リピーターも、最初は浅草寺に来るだろう。 - エリアの個性が異なるため、回遊を持たせる、という目的（前提）が異なるのかと思う。場所によってカラーが異なり、街並みも違う。「来訪者に回ってもらう」というのは難しいのではないか。 - 観音裏や水辺は、もっと広がりを持たせられることを実施できるのではないか。特に、隅田川はもっと取り組めると思っている。隅田川を通じて繋がっていることが表現されると良い。 - 行動ベースで捉えると、①来訪型（飲食やショッピング）、②観光バス型（時間限定の来訪）、③宿泊型の3つであろう。行動ベースで考える、というのは大事な視点と考える。 - 観光目線だけのビジョンではない。現状がどのようになっている、将来をどのように描くのか。ビフォア・アフターの観点も必要なのではないか。	⇒ ビジョン素案：p12で対応しました。 「回遊」の概念は、「<u>人が多く集まる場所では空間を広く確保し、人通りが疎らな場所では魅力を増やし、これらの取り組みを紡いでいくこと</u>」だとして、その説明を加えました。

第8回まちづくり部会での議論・ご意見

ビジョンの素案について

項目	いただいた御意見	対応状況
3章 実現に向けた 戦略	■ソフト施策について - 防災機能の確保や建て替え、ルールづくり等については、商店街ごとに性格が異なるため、それぞれで出来ることは異なってくる。 - 商店街の中で前面道路の使い方等の自主規制をしていかないといけない。（実施しているところもある）ただし、組織化・団結力のあるところとそうでないところで、状況は異なる。 水辺の取組に関しては、ターゲットを何にするのかによって、内容が変わってくる。舟運や親子連れが楽しめる空間づくりなど、いろいろある。	⇒ ビジョン素案：p27, 29, 31, 33で対応しました。 各取り組みに対し「<u>進行イメージ</u>」を記載していますが、そこで、<u>地域・区との連携でどのようにソフト施策として推進するか、を整理</u>するようにしました。 ⇒ ビジョン素案：p20, 30で対応しました。 水辺での取り組みは、<u>人々の往来、舟運、防災に関わること等、多岐にわたるため、そのイメージをⅢ章のイラストやⅣ章のパス等で伝える</u>ようにします。より具体的な取り組み内容は、ビジョン策定後も継続検討していくものと考えております。